



# 山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）  
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



## 下水道施設中央市に移管

### 臨時総会 費用は年2回、20回分割払い

臨時総会が2月23日（火）に流通会館第2展示場で開かれた。組合員58人（うち委任状出席30人）が出席し、2つの重要議案が満場一致で可決された。

第1号議案は、下水道施設移管及び費用負担金支払承認の件で、12月の中央市市議会で長年懸案となっていた下水道施設の移管が承認され、下水道施設を平成28年4月1日に移管することになった。それに伴う費用負担金支払額は65,325,000円で年2回20回分割支払いとなる。

第2号議案は、下水道賦課金の廃止及び下水道負担金の新設承認の件で、下水道施設移管に伴い、中央市への「よし原処理センター負担金」の納入が終了するため、「下水道賦課金」を平成28年3月31日に廃止することとした。また、新たに下水道施設移

管に伴う費用負担金の分割支払いが発生するため、「下水道移管負担金」を平成28年4月1日に新設することとした。

今後、下水道施設移管に伴い、下水道管渠の老朽化に伴う修繕費用の負担、及び地震等災害発生時の下水道管破損に伴う修繕費用負担リスクが回避され、組合にとって団地の安全・安心を守り、優れた立地環境の維持を図ることができる。



下水道管浸入水



下水道管継目ズレ

# IT時代対応の必要性指摘

北ブロック  
懇談会

## 公認会計士灰原先生、人材育成を強調



変革期における企業経営について話す灰原先生

北ブロック懇談会（保坂吉彦幹事）は、2月18日（木）に公認会計士の灰原芳夫先生を招き、「変革期における企業経営～持続的成長企業体となるための方策～」をテーマに講演を聴いた。

灰原先生は、現在、日本郵便株式会社監査役、株式会社アミューズ監査役を務められており、お忙しい中お越しいただいた。

今後の社会経済変化の主要動向として人口減少やTPPによる影響、マイナンバー制度・法人ナンバー制度の導入及び消費税問題等を挙げ、特に、就労人口が

2030年までに800万人ほど減少すると見込まれていることに触れて、人口減少に伴うIT対応の必要性を指摘した。

また、持続的成長企業体となるための具体的対応策として人材育成や新規取引先の導入と既存取引先の入れ替えの見極め、事業自体を請負から脱却し、自立すること等を挙げた。併せて日常の企業活動における身近な経営指標の導入の重要性を指摘し、コストを把握し、期、日、時間にどれだけ稼ぎ出せばよいのか、現場が分かる経営指標を作ることが経営者と現場のギャップをなくすことに繋がると話された。

最後に、今後は営業なら営業、財務なら財務に特化した人材を育てていく時代であり、そういう人材を持つ会社生き残る。また、近年はLCCやLLP等の共同事業体、有限期間での事業展開が非常に多くなっており、今後は色々な会社を連携させ、各々が適材適所でビジネスを行うスタイルを視野に入れていく必要がある。人材育成、M&AやLCC等を順応に使いこなせる環境と柔軟性を経営者が養いながら、次世代に伝授していくことで会社が生き残り、会社も人も成長する。日々繰り返し続けていくことを進めていただければと思うと結ばれた。

## 障害者雇用などについて学ぶ

定例  
懇談会

## 労働契約法改正踏まえて



定例懇談会が2月23日（火）、臨時総会終了後に開かれ、組合員・準組合員40人が出席した。

今回の講演会は、雨宮労務管理事務所所長 社会保険労務士の雨宮隆浩先生を講師に招き、「最近の労働関係法改正のポイント」をテーマに講演していただいた。

労働安全衛生法の改正に伴い、平成27年12月から導入されたストレスチェック制度や労働契約法の法令改正について、また障害者雇用について説明があった。ポイントのみの説明であったが、各組合員には重要な法律改正であり、皆真剣に聴き充実した懇談会となった。

## 税務手続きの変更などを知る マイナンバー制度研修会

## 参加者多く、関心の高さ示す

4月19日（火）、講師に甲府税務署 総務課課長補佐 滝口雅幸氏を招き、「マイナンバー制度研修会」を開催し、42人が出席した。

マイナンバー制度は非常に関心の高い法律改正であり、組合としても昨年7月と10月に説明会を開いており、今回で3回目であったが、多くの出席があった。

税務手続きや申告書類の変更点について具体的な説明があり、参加者たちが熱心に話を聴く様子が見られた。



# 新 入 社 員 紹 介

(13社37人が仲間入り)

氏 名 会 社 名 趣 味						
	篠原 茉莉奈 株アットブレイン 読書	古屋 宏樹 株アットブレイン バイク	杉山 貴寛 甲信商事株 釣り	渡邊 宙幹 甲信商事株 ギターを弾くこと	星野 鈴佳 甲信商事株 サッカー観戦	内田 彩夏 甲信食糧株 映画鑑賞
	チャレンジ してみたいこと	ラフティング	スカイダイビング	スポーツ	たくさん資格を取る	東京マラソン
氏 名 会 社 名 趣 味						
	井上 玲奈 株甲信食糧 音楽鑑賞	玉島 光彬 株正直堂 映画鑑賞 スポーツ	饗場 裕也 株正直堂 音楽鑑賞 スポーツ	倉島 里美 株正直堂 音楽鑑賞	天野 真梨菜 株スズケン カフェめぐり	小澤 雅士 株スズケン ランニング
	チャレンジ してみたいこと	ワード検定	自分がやりたいことを忙しい中 でも時間を見つけてやること	一人で文房具の配達を すること	髪の毛をバツリ切ること	富士登山
氏 名 会 社 名 趣 味						
	清野 雄斗 株中央物産 音楽鑑賞	青野 萌衣 株中央物産 読書	土谷 美乃理 株日医工山梨 旅行 ドライブ	古屋 隆行 株マコト医科精機 ショッピング 旅行	保坂 圭哉 株マルモ テニス	鈴木 拓巳 株マルモ 車いじり
	チャレンジ してみたいこと	長距離運転	自分でお弁当を作る	パラグライダー	格闘技	ゴルフ
氏 名 会 社 名 趣 味						
	古屋 春花 株マルモ 音楽鑑賞	清水 優也 株むろい スポーツ観戦 (バレーボール、野球)	三枝 龍太郎 株むろい 映画鑑賞	伊藤 明里 株むろい ライブに行く	相原 澗 株むろい 音楽鑑賞	太田 竜弥 株羽中田自動車工業 サッカー ドライブ
	チャレンジ してみたいこと	海外旅行	会社の車を運転する	自転車通勤	自分の運転で遠出	海外旅行
氏 名 会 社 名 趣 味						
	三井 涼太郎 株羽中田自動車工業 カメラ マンガ	石原 武 株羽中田自動車工業 バスケット ドライブ	松田 理菜子 株羽中田自動車工業 バレーボール 日向ぼっこ	伊藤 秀平 株羽中田自動車工業 映画鑑賞	伊藤 久美子 株羽中田自動車工業 ドライブ	岩田 拳人 株羽中田自動車工業 温泉
	チャレンジ してみたいこと	世界二周	山梨県バスタめぐり制覇	DIET	福岡へ行く	やせる

氏名 会社名 趣味				
	長田 加奈子 株羽中田自動車工業 スノーボード	猪股 美帆 株富士メディカルサービス テレビ鑑賞	初鹿 佑衣 株渡辺商店 ダンス 映画鑑賞	佐藤 里保 株渡辺商店 音楽鑑賞 絵を描くこと
チャレンジ してみたいこと	バンジージャンプ	一人旅行	バンジージャンプ	富士登山
氏名 会社名 趣味				
	藤巻 莉瑚 株渡辺商店 写真 音楽鑑賞	中村 優太 株渡辺商店 スポーツ 音楽鑑賞	伊藤 祐 株渡辺商店 スポーツ 筋トレ	
チャレンジ してみたいこと	フランスに行く	キャンピングカーで 旅をする	東京マラソン	



## チャップリンに学び困難克服

### 新入社員研修会 身だしなみの大切さも教えられる

平成28年度新入社員研修が4月7日（木）・8日（金）の2日間、流通会館大会議室で行われ、昨年よりも多い10社から24人が参加し、活気ある研修となった。

開講式で栗山理事長は、チャーリー・チャップリンの名言『愛と勇気とわずかなお金があれば人生を楽しく過ごすことができる』を引用し、「これから仕事面でも生活面でも悩み、苦しいことばかりだと思ふ。そんな時はチャップリンが強調した「勇気」をもって逃げることなく立ち向かってください。必ず明るい人生が待っているでしょう。」とアドバイスされた。

講師はコミュニケーション・アカデミーの鬼塚啓介先生。新入社員たちは身だしなみやお辞儀の仕方

等のビジネスマナーをはじめ、ビジネス話法や電話応対、仕事の進め方等を学んだ。スピーチやグループワーク中心の実践的な研修に、受講者からは「身体で覚えることができた」「不安要素が少し薄れ、自信が持てた」等の声を聴くことができ、有意義な研修となった。研修で学んだことを忘れず、勇気をもって今後の業務に取り組んでもらいたい。



24人が参加した研修会

## 企業の垣根越えて交流

### 新入社員ウェルカムパーティー

第3回新入社員ウェルカムパーティーが4月8日（金）に「焼肉ほくり」で開かれ、7社から17人の参加があった。

当日は組合が行っている事業について理解を深めていただき、今後参加してみたいイベントや研修について意見を出し合った。今後参加したい研修としては「仕事で使うパソコン関係の研修（CAD等）、英会話、中型トラック免許取得」の声が挙がり、仕事への意欲的な姿勢が見られた。

また新入社員ならではの悩みについて話は盛り上

がり、企業の垣根を越えた交流ができ、有意義な会となった。



# 昨年度の認定職業訓練対象研修紹介

## 新入社員研修 & 新入社員フォローアップ研修



4月に新入社員研修、10月にフォローアップ研修を行い、社会人の基本であるビジネスマナーや電話応対、ビジネス話法等を学んだ。研修はグループワーク中心で行われ、グループ討論やロールプレイング等、実践的な内容で進められた。

## Excelビジネス関数テクニック講座



関数の基礎知識をはじめ、日常業務で使用する請求書や売上データ、社員リストや統計資料等を関数を使って効率的に作成する方法を学んだ。

## フォークリフト運転技能講習会



最大荷重1トン以上のフォークリフトの運転に必要な運転技能資格の取得を目指すこの講座は、非常に需要が高く、昨年度は7月と11月に2回行い、18人が参加した。

## 記憶力・理解力が向上する速読術セミナー



年齢や経験に関わらず、誰でも簡単に本を早く読めるコツを学んだ。ただ本を読むだけでなく、本の内容をグループで発表する等、話す機会が多くあり、自分の言いたいことを相手に伝える練習も兼ねたセミナーだった

## マネジメントセミナー



企業のミニチュアを使用し、参加者一人一人が会社の社長になって仕入・製造から販売、決算までを行い、経営を体験した。そして社長の視点で経営を疑似体験することで、企業の大枠、利益の構造、経営学、会計学を学び、知識を身に付けた。

## イラストレーター基礎講座



イラストレーターの基本機能と操作方法から、名刺や地図、パンフレットの作成方法までを学んだ。実際に図を書いたり、テキストに載らないような時間を短縮できる操作方法を学んだりと実践的な内容で行われた。

## 組合員の異動

組合員名	異動前	異動後
リコージャパン(株) 山梨支社	支社長 小柳正樹	支社長 米谷正児

## お知らせ

## 第17回センターでバザール

日 時 平成28年9月3日(土) 9:00~16:00

場 所 流通会館およびその周辺

## 『事務局日誌』 ～2、3、4、5月の主な会議等～

- ◆2月 2日 正副理事長会議
- 12日 未来検討特別委員会
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 15日 生活改善委員会
- 17日 中小企業組合等事務連絡協議会
- 18日 北ブロック懇談会
- 19日 LoMAの会定例会
- 20~21日 マネジメントセミナー
- 23日 臨時総会・定例懇談会
- 23~24日 乳がん検診
- ◆3月 1日 正副理事長会議
- 1日 未来検討特別委員会
- 4日 商団連事務局長会議
- 8日 パソコン講座(イラストレーター)  
3/24まで
- 9日 南ブロック懇談会
- 11日 生活改善委員会
- 11日 東ブロック懇談会
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 15日 理事会
- ◆4月 5日 正副理事長会議
- 6日 生活改善委員会
- 7~8日 新入社員訓練
- 8日 新入社員ウェルカムパーティー
- 8日 LoMAの会定例会
- 11日 研修・厚生委員会
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 19日 マイナンバー制度説明会
- 21日 北ブロック懇談会
- ◆5月 10日 正副理事長会議
- 10日 組合会計監査
- 11日 生活改善委員会
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 12日 未来検討特別委員会
- 12日 理事会
- 18日 北ブロック懇談会
- 19日 生活改善委員会ページ作成会
- 26日 組合通常総会
- 26日 「MIRAI」試乗会
- 28~29日 西駐車場・会館前駐車場白線修復  
工事

## かいがね

先頃、以前から望んでいた丸木美術館に行った。埼玉県東松山市の郊外、周囲を畑や木立に囲まれたまるで倉庫のような建物だが、それが丸木依里(イリ)、俊(トシ)夫妻が描いた「原爆の図」を展示する美術館である。テレビや画集などで見たことはあったが、是非実物を見たいと思っていた。たまたま見学ツアーの募集があり、この機会に妻と一緒に参加したという訳だ。

丸木夫妻の年譜によると、依里は広島に原爆が投下された3日後に東京から初めての列車で広島に入り、数日後、俊も続いた。広島は依里の故郷であり身寄りや友人知人が多かった。依里の実家は爆心から2キロほどのところだったが、屋根や窓は吹き飛ばされ柱と壁だけが辛うじて残っていた。2人は死臭漂う屍の中をそこで生き残った人たちと同じようにさまよい歩いた。9月に東京に戻り、初めて戦争が終わったことを知った。原爆の図を描き始めたのはそれから3年もたってからのことだった。

入り口から階段を上ると2階が広い展示室になっていて足を踏み入れると壁面全体を埋めるように配置された黒ずんだ絵のその迫力に思わず息をのんだ。原爆の図だ。(全15部のうち私たちが行った時はアメリカのボストンなどの巡回展示のため3分の1ほどは見る事ができなかった)。1枚が縦1.8m幅7.2mの屏風に殆どが墨一色で描かれた累々と重なるように横たわる死体と、裸の人々が血を流しほろのようにただれた皮膚を引きずってさまよう姿は悲惨さを超えて衝撃である。一発の原爆で26万人もの命が失われた広島の惨劇を丸木夫妻はあの時の記憶を呼び戻しながら全15枚もの大作を34年にわたって描きつづけた。依里は被災者たちがそうであったように裸になってまるで絵具をぶちまけるように、格闘するかのよう絵筆を振るったそうだ。

丸木夫妻は何故これほどに悲惨な絵を描いたのだろうか。広島の人々の冥福を祈り再びこの惨事を繰り返すなという思いに違いない。だが、夫妻は言う。原爆の図に描けたのは900人余り、26万人の犠牲を思えば一生描き続けても描き尽くせるものではない、と。

今、広島、長崎に原爆を落とした国を知らないという若者もいる。終戦の日の街頭インタビューで71年前日本がアメリカとの戦争に負けたことすら知らない若者がいたのにも驚いた。私自身、あの戦争の現実を知ってはいないが、日本人はそういう歴史があったことを忘れてはならない。あの戦争で日本人は300万人もが犠牲となり、日本軍が出兵した東南アジアや中国・朝鮮で亡くなった人々は2,000万人にもものぼるという重い負の遺産を残すことになったのだから。(M)